

# あぶらとり紙データ作成の注意点

## Ai イラストレータでのデータ作成時

Adobe Illustratorでのデータ作成注意点

対応バージョン

Creative Cloud(CC) まで

01. Illustratorで画像をリンクしている場合は、リンク画像も一緒にデザインデータのフォルダに入れて入稿してください。
02. 弊社に無いフォントの場合、意図していないフォントに置き換わったり文字が化けてしまったりするため、テキストは必ずアウトライン化してください。
03. パターンのアウトライン化がされていない場合、印刷データへの変換時に絵柄が崩れる可能性があるため、パターンは必ずアウトライン化してください。
04. テキストを打った時にできる余分なアンカーポイント(孤立点)は削除してください。
05. データの総インキ量を380%以内にしてください。(総インキ量が高いとインキ剥がれの原因となります。)
06. 断裁・型抜きをの天地左右に各3mmの塗り足し分を必ず作成してください。 ※1  
(※色が断裁ラインギリギリに配置されている場合、断裁時に白いフチができてしまう可能性があるため、断裁ラインの外側にまで色を塗り足します。)
07. 不要なオーバープリントがかかっているか、確認をしてください。  
(※不要なオーバープリント設定がかかっている場合、意図していない色味に変わってしまったり、オブジェクトが印刷に反映されない恐れがあります。)
08. カラーモードをRGBからCMYKに変換してください。モニター上で見た色と印刷した際の色との再現が大きく異なります。
09. 塗りで作られた細い線は、モニター上で見えていても、印刷時に消えたり消えたりするため必ず線で作成してください。
10. 保存時にバージョンを下げないでください。(作成していたデータと保存したデータに違いが出てしまうので、ミスのもとになります。)
11. データの保存形式はai形式かeps形式にしてください。

## Ps フォトショップでのデータ作成時

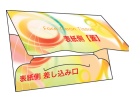
Adobe Photoshopでのデータ作成注意点

対応バージョン

Creative Cloud(CC) まで

01. 印刷物で十分な品質を確保するためには画像解像度の確認をしてください。  
フルカラーの画像データは、原寸サイズで300~350dpiの解像度が必要となります。  
グレースケールやモノクロ二階調の画像データは、原寸サイズで600~1200dpiの解像度が必要です。
02. レイヤーの表示非表示により、印刷されないレイヤーがある等のトラブルの原因になる可能性があるため、作業中に作成した印刷に使用する全てのレイヤーは、一枚の背景レイヤーに統合してください。またこれを行うと、フォントもラスタライズされ、フォントのアウトライン作成は必要ありません。
03. データの総インキ量を380%以内にしてください。(総インキ量が高いとインキ剥がれの原因となります。)
04. カラーモードをRGBからCMYKに変換してください。モニター上で見た色と印刷した際の色との再現が大きく異なります。
05. データの保存形式はpsd形式かeps形式にしてください。

## テンプレートデータについて

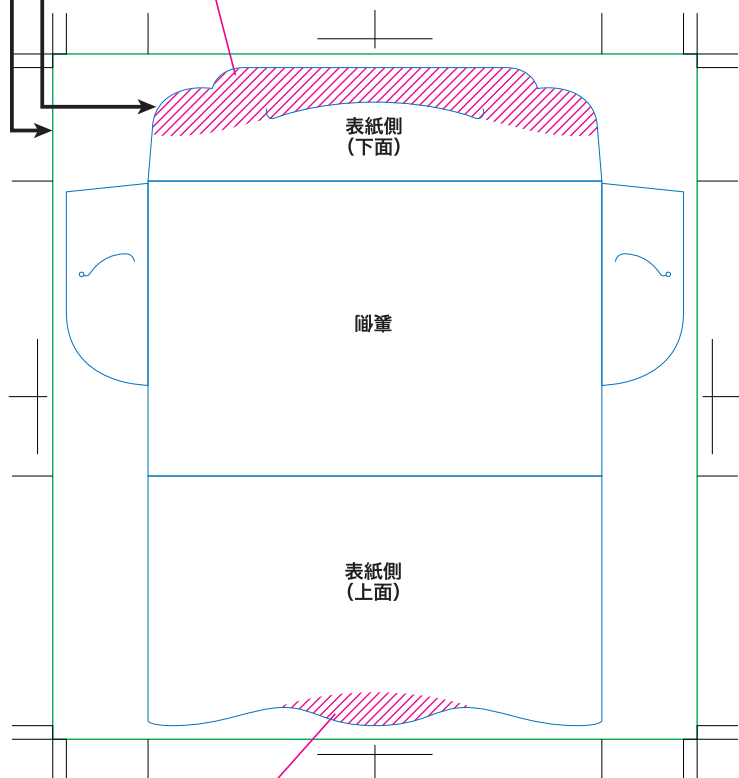


### ケースタイプ

**印刷サイズ** ※1 断裁位置いっぱいにはデザインする場合は、印刷サイズまで塗り足し(断裁ライン+天地左右 各3mm)を付けてください。

**断裁・型抜きライン** 切り抜きラインです。製品の仕上がり位置です。

斜線部は差込みのため、組立の際表紙側(上面)で隠れてしまいます。

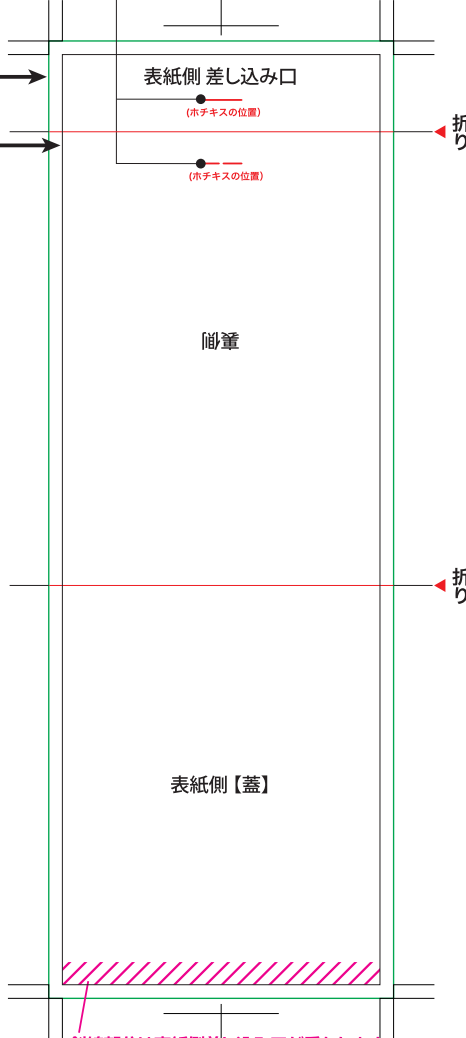


斜線部は差込みのため、組立の際表紙側(下面)に隠れてしまいます。



### ブックマッチタイプ

※ホチキス位置の目安となります。作業の際、こちらの位置からずれる場合がございますので、ご了承ください。



斜線部分は表紙側差込み口が重なります。